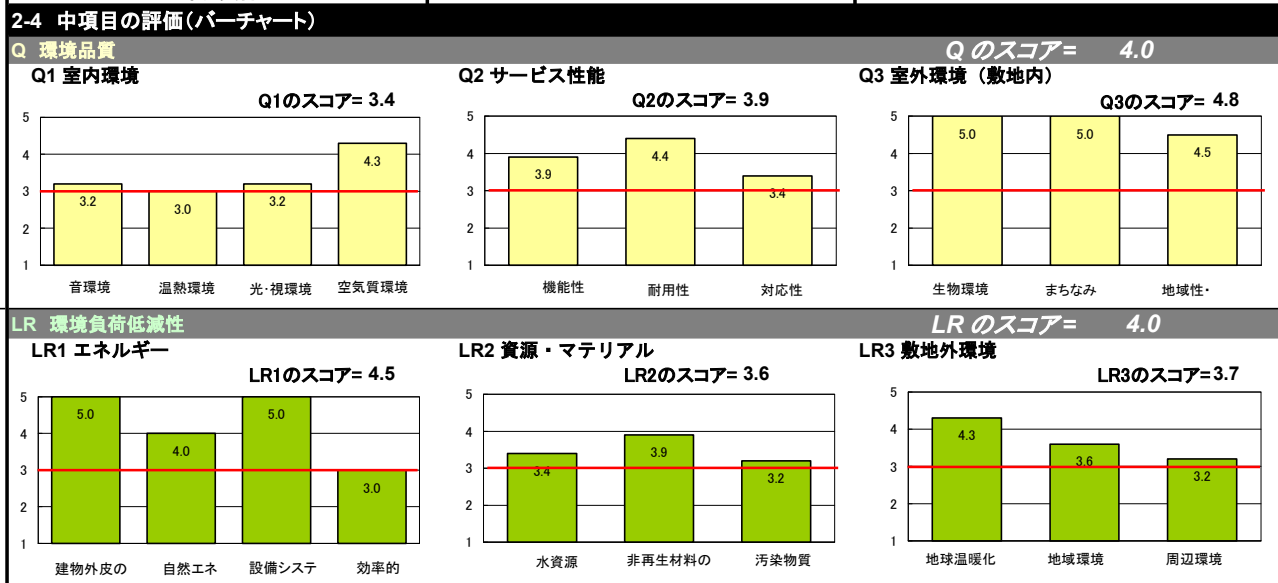
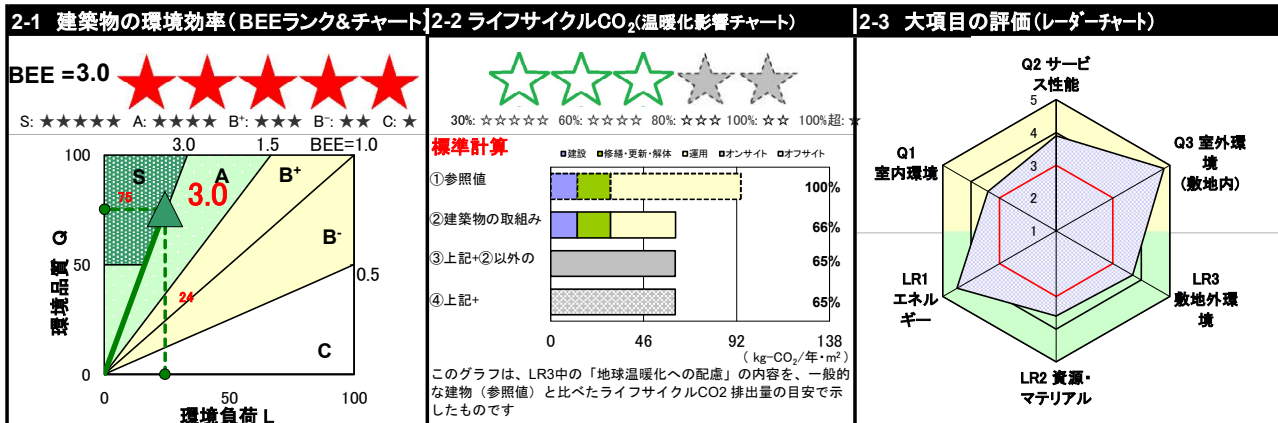


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	入間市庁舎	階数	地上6階、地下1階
建設地	埼玉県入間市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域なし、22条指定	平均居住人員	826 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,100 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年11月 予定	評価の実施日	2025年3月1日
敷地面積	20,106 m ²	作成者	
建築面積	4,366 m ²	確認日	2025年3月2日
延床面積	13,883 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他
総合 基本理念は「交流と協働 ～市民と行政のエネルギーを1つに～ 市民どうし、市民と行政の交流と対話からまちづくりを始める場。」、コンセプトは「誰もが気軽に立ち寄り、集う、市庁舎「いるまりビング」とし、リビングのように市民が気軽に集い、市民と職員の協働によるまちづくりを担う市庁舎を計画します。既存庁舎の活用や茶畑の配置で環境に配慮します。」		
Q1 室内環境 公共施設として標準以上の室内環境性能を有する計画です。 優れた遮音性、吸音性、外皮性能を有するだけでなく、自然換気、昼光利用など、自然エネルギーを活用した計画です。	Q2 サービス性能 公共施設として標準以上のサービス性能を有する計画です。 構造耐力にはゆとりを持つことで改修に対応できる柔軟性を有し、執務室空間にはOAフロアやリフレッシュスペースを有します。	Q3 室外環境 (敷地内) 入間市の特徴である茶畑のランドスケープをはじめ、緑のある屋外空間や雨に濡れないビロティ空間を有する計画とし、優れた屋外環境とします。
LR1 エネルギー ZEB Ready相当の環境性能を有し、自然エネルギーを活用し、環境にやさしい計画とします。	LR2 資源・マテリアル 既存建物の一部を改修し、継続利用することで、資源を有効活用する環境に優しい計画とします。	LR3 敷地外環境 茶畑のランドスケープをはじめ、豊かな植栽を有する外構計画とすることで、環境にやさしいだけでなく、利用者にも優しい計画とします。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
人間市庁舎

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								4.0	
Q1 室内環境					0.40		-	3.4	
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		遮音が必要な室の扉の遮音性能はT-2以上の計画		3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音		執務室の天井と床に吸音材を使用		4.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.2	0.25	-	-	3.2	
3.1 昼光利用				3.4	0.30	-	-		
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		市民協働スペース共用部に昼光利用するトップライトを設置		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		全般照明で500lx以上		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.3	0.25	-	-	4.3	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		VOCの放散量が少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量		30m³/h・人にて換気量を計算		4.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO₂の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙所を設けない計画		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.9	
1 機能性				3.9	0.40	-	-	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		移動等円滑化基準を満たす計画		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		執務室の天井高は2.7m以上で、窓を有する。		4.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上のリフレッシュスペース、自動販売機を設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		内観・パースで照明・内装計画を検討した。		5.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い塗料を採用した。		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		十分な清掃用スペースを計画した。		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30	-	-	4.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造とし、十分な耐力を有する計画		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震構造とし、風荷重に対しても揺れに配慮した		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		CASBEE新築 補助資料より、主要内装仕上げはすべて20年以上		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水: 塩ビライニング銅管、排水: 塩ビ管を採用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		換気設備系統の区分、発電機によるバックアップ、空調系統の区分		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水器具の採用、系統の区分、緊急排水槽の設置、		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電機/電気設備屋上配置/電源車接続盤設置他		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高は4.0m以上の計画	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率は0.1以上	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.8
1	生物環境の保全と創出	茶畑のランドスケープをはじめ、生物環境の保全と創出に配慮	5.0	0.30	-	-	5.0
2	まちなみ・景観への配慮	既存環境の保全やふるさと埼玉の緑を守り育てる条例の遵守	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	茶畑のランドスケープをはじめ、地域性に配慮した計画	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	植栽や中間領域による充実した屋外環境	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI:0.64	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	採光・通風等自然エネルギーを利用	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	[BEI]/[BEIm] = 0.50	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存躯体を改修し、一部は継続利用する	5.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット、ビニルシート、ビニルタイル	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材は容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	窒素ガス消火システムを採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		LCCQ2の低減に寄与する設備性能	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	人間地域の気候に即した環境性能を計画	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水抑制対策を実施	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車場・荷捌き・思いやり駐車場を計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半数を満たす器具配置、広告照明無し	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	周辺に光害を及ぼさない日影計画や外壁仕上げ	3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

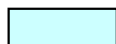
建物名称	入間市庁舎	BEE	3.0	BEEランク	★★★★★
------	-------	-----	-----	--------	-------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.3	+	4.3	=	8.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO ₂ の削減		スコア平均	4.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.3
<配慮した内容を記述> 既存施設を部分的に改修し、継続利用することで、LCCO ₂ の削減に大きく寄与している。また、高性能空調機器の採用や、パッシブソーラーデザインの導入によってBEI=0.50を達成し、環境負荷の軽減に努めた。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	4.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	5.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	4.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	4.0
<配慮した内容を記述> 市民広場に茶畑を計画し、風土に即した豊かな屋外空間を計画した。日陰を作る高木をはじめ、パーゴラ、レインガーデンを適宜設けることで、敷地内の環境改善をし、利用者の市民広場の回遊を促した。壇上に形成した市民広場に連続する市民協働スペースを設けることで、効果的に豊かな景観を形成する計画としている。			

 : 入力欄